



浦島伝説

ちよつとしいい話

その1 横山市長が三豊市のホームページに掲載している「市長のちよつとしいい話」から引用しました。市長さんには、本校体育祭の来賓としてご案内を差し上げていたところ、当日は来賓の中で一番早く来校され、全員リレーが終わるまで見ていただきました。下に、最新の記事を掲載していますが、体育祭を話題にされたことから、体育祭での生徒たちの姿が印象に残ったことがうかがえます。

三豊市では5月25日(土)・26日(日)に各中学校の体育祭が開催されました。読者の皆さんの記憶の中で、体育祭は秋、秋季の楽しい恒例行事だと思えますが、このところ春季の体育祭が増えています。今年も、三豊・高瀬・三野津・詫間・仁尾の各中学校が春のこの日に開催をしました。1年生はこのあいだ入学したばかりで大変だと思えますが、もうみんなしっかり中学生になって楽しんでいました。

なぜ秋ではなく春になったのかと聞いたところ、まず、温暖化の影響で9月中下旬はとても暑く、熱中症が気づかれるということ。秋はむしろ勉強に集中させて、そちらの力をつけた方がいいこと。春という学年の始まりの時期に体育祭の練習を通してクラスが団結していく効果がある。ということだそうです。

今年も25日(土)に詫間中学校、26日(日)に仁尾中学校の体育祭に参加しましたが、確かにこの季節の方がすがすがしくていいですね。詫間中学校体育祭のテーマは、「OVERCOME MYSELF L F ～全力が未来を変える～」。仁尾中学校体育祭のテーマは、「「活」～煌めく思いと一人ひとりの my stage～」でした。青春の意気を感じさせてくれます。山の新緑も、透き通った青空のもと、鮮やかに色づき勢いづいてますが、三豊の若者達も青春いっぱい、元気いっぱい楽しんでいました。

時代は「生涯現役」から「生涯青春」に変化しています。「青春とは人間のある期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ」(サムエル・ウルマン)です。昼も夜もいい季節になっています。皆さん元気で青春を謳歌しましょう。 ※「市長のちよつとしいい話」No117 (H25.5.30) から一部抜粋

その2 本日、詫間町図書館のご協力を得て、全クラスで本の読み聞かせを行い、読み聞かせボランティアとして、安藤信子さん、小林哲子さん、後藤緑さん、白川真由美さん、竹林千鶴さん、浜口和子さん、馬城明美さん、増田康子さん、三土真千子さん、三宅富美子さん、宮武哲世さんの11名が来られました。終了後、「生徒たちが真剣に聞いてくれてとてもうれしかった」「去年と比べて学校が落ち着いていますね」などの言葉をいただきました。また、「朝、詫中の前を車で通るとき、手でどうぞお先にという合図してくれる生徒さんがいて、とても心温まる思いがしました」など、普段の生徒たちの様子を評価していただきました。交通マナーのおしかりを受けることが多いなかで、「かなりいい話」を聞くこともできました。

